

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

JUNE 2016

June						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

うんしんじ

雲心寺

所在地：名古屋市熱田区尾頭町

交通：地下鉄名城線「西高蔵」駅 北西 約 200m

明治時代、文明開化の流れから西洋文化の取り込みが進み、各地で数多くのレンガ造建物が造られました。名古屋でも、県庁や市役所、名古屋鎮台（第三師団）、学校や紡績会社、電灯会社などがレンガ造で作られ、その重厚感から地震にも強い堅牢な建物だと思われていました。

しかし、明治 24（1891）年 10 月 28 日に発生した、内陸活断層型地震としては最大級の濃尾地震の激震は、これらのレンガ造建物をことごとく「崩壊」させたのです。名古屋では、名古屋郵便電信局や名古屋鎮台、名古屋監獄などで被害が大きく、濃尾地震発生後の写真を収録した『濃尾大震災寫真帖』には、2 階が崩壊した名古屋郵便電信局の写真や市内各所の被災後の写真が残されています。

また、愛知郡熱田町（現在の名古屋市熱田区尾頭町）にあった尾張紡績会社の紡績工場も、濃尾地震で崩壊したレンガ造建物のひとつで、『濃尾大震災寫真帖』には、崩壊した工場と折損した煙突の様子を撮影した写真が残されています。



(上) 被災した名古屋郵便電信局
(下) 被災した尾張紡績会社
「濃尾大震災寫真帖より」

愛知憲兵隊本部による東京の憲兵隊司令部への午後 8 時の報告では、「紡績会社ニテハ負傷者九十七名但重傷者多シ、即死三十名程未ダ二三十名ハ所在不分明、多分煉瓦石ノ下ニアル見込」とされており、この尾張紡績会社では、崩壊したレンガ造建物の下敷きになり多数の死傷者が発生した様子が伝えられています。結局、尾張紡績会社では、地震発生時、労働者の勤務交代の時間であったこともあり、総勢 850 名が工場内にいて、30 数名が即死、130 名余りが負傷しました。名古屋市熱田区の雲心寺には、濃尾地震による尾張紡績会社での犠牲者を慰霊するための震災弔魂碑が残されています。



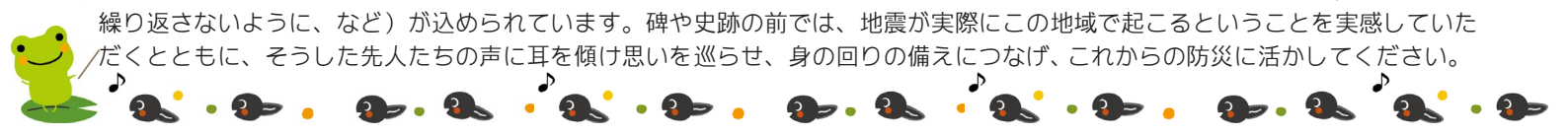
震災弔魂碑

ところで、濃尾地震の後、地震とその被害発生メカニズムを研究し、地震による災害を防止するための対策の推進を図ることなどを目的として、国に「震災予防調査会」が設置され、地質学・地球物理学・建築学など、幅広い観点から広範にわたる調査・研究が実施されました。

大正 12（1923）年の関東大震災では、レンガ造建物で再び多くの被害が発生しますが、濃尾地震当時、建築途中であった司法省、裁判所、海軍省（いずれも当時）の建物は、濃尾地震の教訓が実際の施工に活かされ、激震に耐えています。濃尾地震、関東大震災を経験して、建築界ではレンガ造より耐震性の高い鉄筋コンクリート造が主流となっていくのです。



◆ 地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆ 雲心寺の周辺には…

● 熱田神宮（佐久間灯籠）

所在地：名古屋市熱田区神宮

交通：名鉄名古屋本線「神宮前」駅西約200m

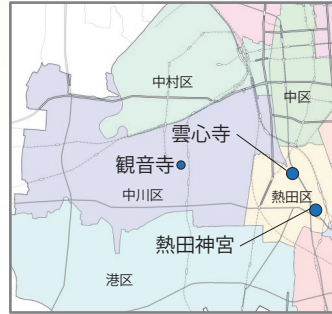
熱田神宮は熱田台地の南端にあり、宝永4（1707）年宝永地震、嘉永7（1854）年安政東海地震の津波の浸水を免れています。正参道と東参道の合流点に佐久間灯籠が建てられており、明治24年濃尾地震などにより3度倒壊していますが、いずれも復元されています。



● 観音寺（荒子観音）

所在地：名古屋市熱田区荒子町

交通：あおなみ線「荒子」駅南西約600m



荒子観音は、江戸時代から尾張四観音の一つとして重んじられてきた観音寺です（残り三つは、笠寺観音、龍泉寺観音、甚目寺観音）。本堂は明治24年濃尾地震で倒壊し、その古材を用いて建てられた仮堂が80年以上にわたり使用されています。

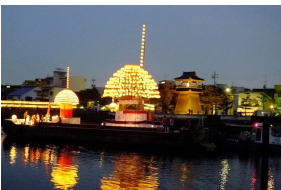


◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 堀川まつり

堀川まつりは、堀川の浄化と地域振興を目的に、6月の第1土曜日・日曜日に開催されます（平成28年は6月4,5日）。土曜日には、津島天王祭を起源とするまきわら船が宮の渡し公園に着岸し、紀左衛門橋まで曳き回され、日曜日は、大山（山車）の曳き廻しが見どころとなっています。

堀川まつりの起源は、江戸時代に隆盛を極めた洲崎の天王祭と熱田の天王祭です。洲崎の天王祭ではまきわら船が、熱田の天王祭では、20mにも及ぶ大山の山車が活躍していました。明治の終わりごろになると、熱田の天王祭も電線の影響などによりまきわら船に変わり、戦後は熱田まつりとして続けられますが、昭和50年に資金不足などの事情により一度中止されます。その後、平成2年に、堀川まつりとして小型ながらまきわら船が復活し、現在では大山の山車も復活して2日目に曳き廻しが行われています。



「堀川まちづくりの会」HPより

6月のあいちの花

平成28年6月のあいちの花はポットローズです。ポットローズは鉢植えのバラの総称で、庭植えが一般的だったバラを鉢植え用に改良したものです。庭植え用のガーデンローズは、地植え（地面に直接植える）で成長できるよう、台木に向く強い品種の根に枝を接ぎ木して生産されますが、鉢植え用のポットローズは、直接それぞれの枝を地面に挿し木して、その枝から自らの根が発達して成長していくため、地植えで育てると弱ってしまいます。



● ブレイクタイム ●

♪ 旧加藤商会ビル

旧加藤商会ビルは、納屋橋の北東角に堀川に面して建つ国の登録有形文化財の建築物です。

昭和6（1931）年頃に建築されたこのビルは、大正から昭和にかけての近代建築の特徴を残し、テラコッタ（柱頂部の飾り）や外壁のレンガ調タイル、レリーフ模様などを見ることができます。昭和10年頃にはシャム国（現タイ王国）の領事館が置かれていました。

現在では、公益社団法人名古屋まちづくり公社により、1階から3階はタイ料理のレストランとして活用され、地下1階は「堀川ギャラリー」として、堀川の情報などを集積・発信する場となっています。



旧加藤商会ビル
なごや歴まちネット HPより

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成28年6月）

